

9 褥瘡(じょくそう)発生率

入院されている患者さんのうち、新規に褥瘡が発生した割合を示しています。

褥瘡とは、寝たきりなどによる体重で圧迫される場所の血流が悪くなったりすることで、皮膚の一部が赤い色味をおびたり、ただれたり、傷ができたりしてしまうことです。一般的には「床ずれ」ともいわれています。

褥瘡発生率は、看護ケアの質評価の重要な指標の1つになっています。

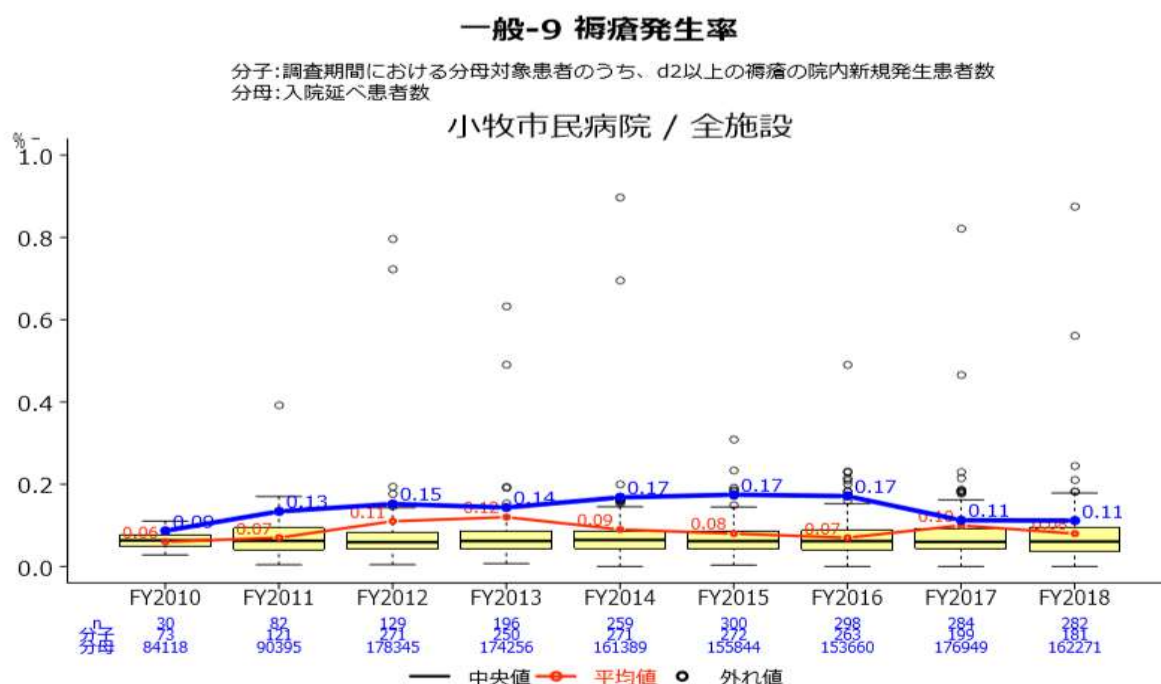
本指標では、より低い値が望ましいとされています。

〈Depth(深さ)〉

d0:皮膚損傷なし・発赤なし d1:持続する発赤 d2:真皮までの損傷

D3:皮下組織までの損傷 D4:皮下組織を超える損傷 D5:関節腔、体腔に至る損傷

DU:深さ判定が不能の場合



全施設平均値との比較

当院の褥瘡発生は全体の約3割以上、終末期の患者さんが占めています。終末期の患者さんは予防ケアを行っていても身体的要因から発生しやすい状況であります。

また緩和ケア病棟(以下「PCU」という。)もあることから、全国平均より褥瘡発生率はやや高い傾向にあると考えます。

2017年度当院データとの比較

同値で推移できています。褥瘡管理者で算出している褥瘡発生率では、2017年度より2018年度は減少を認めています。

数値改善に向けた今後の取り組み

高齢者特有の皮膚脆弱やせん妄、サルコペニアの患者が増加し、個体要因のリスクファクターが増加してきている中、通常の褥瘡予防（体位変換やエアマット導入）のみでは、発生を減少することが困難になってきています。

2017年度より骨突出部位の発生予防にガーゼ保護を実施してから減少を認めています。さらに数値を改善させるには、褥瘡予防専用のドレッシング材の使用も検討が必要である（PCUで効果があるのと実績あるが、コスト面から院内全体の使用を見合わせています）。

2017年度評価時の改善策の実施状況と評価

病的骨突出部位の褥瘡予防として、ガーゼ保護を実施するようになってから、褥瘡発生予防に繋がっています。